

「関西広域産業ビジョン（2023年改訂版）（素案）」に対するご意見・ご提案と関西広域連合の考え方

令和6年1月

関西広域連合広域産業振興局

「関西広域産業ビジョン（2023年改訂版）（素案）」に対する府県民意見等を募集した結果、2名から延べ5件（うち意見の公表を望まないもの1件）のご意見・ご提案をいただきました。

いただいたご意見・ご提案に対する関西広域連合の考え方は下記のとおりです。

整理番号	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
1	<p>インバウンド振興につき、少なくとも2027年のワールドマスターズゲームの期までは国と府の手厚い支援が必要かと考える。</p> <p>ワールドマスターズゲームの開催とそれ以後に向け、今まで以上にスポーツ人口と新しいスポーツ種目の裾野を広げてはどうか。</p> <p>新しいスポーツ種目の裾野を広げ、用品や用具のニッチ分野を開発し世界シェアを狙い、外貨を獲得していける企業を育成していく必要性を強く感じる。</p> <p>バイオ医療やAI分野は莫大な投資を必要とするがリスクも大きい。よりリスクが低く安定して財源を確保していける産業分野の育成と保護も大事ではなからうか。</p> <p>ニッチ分野で世界シェアを獲得して安定して高収益を得られる産業・企業群を地道に育成、保護していつてもらいたい。</p>	<p>関西広域産業ビジョンは、関西が目指す将来像とその実現に向けたアプローチ（関西チャレンジ①～③）を提示するものであり、全産業を対象としております。</p> <p>各チャレンジは、基本的な取組姿勢を示すものであり、その中でも、関西チャレンジ②では“現状維持を超え、高付加価値化（新展開、深化）による関西産業の持続的成長”を目指します。</p> <p>いただいたご意見は、現状に満足することなく新たな切り口や試みで、関西産業の成長促進に寄与していくことが必要という課題提起であると受け止めました。当局でも同様の課題意識を持って、関西チャレンジ②を設定しており、今回のご意見の趣旨と合致していると考えます。</p>
2	<p>大阪は湾港の都市である。湾港の発展失くしては大阪の存立が危ぶまれる。湾港のインフラを維持していなくては都市そのものが衰退してしまう。</p> <p>湾港部のインフラ維持のためには海外の気まぐれな観光客に左右されるインバウンド・サービス産業だけに頼る財源確保ではなんとも心許ない。</p> <p>インバウンドやサービス産業、ならび倉庫業も収益性は低い。将来的に、港部に安定して高収益が得られ、またより多数の安定雇用も見込まれる製造業型産業・企業群の立地を望む。</p> <p>日本と大阪の生命線を握る海運業の振興も抜本的に見直していただきたい。</p>	
3	<p>気候変動がますます激しくなり、地球沸騰化時代まで言われ出した。今後の食糧確保が懸念される。関西・大阪圏の食糧自給率を上げてく戦略策定も重度度が増してくる。</p> <p>気候変動、地球沸騰化にも耐えられる農業、次世代食糧産業育成と湾港都市・大阪にふさわしい21世紀未来型の漁業振興も必須ではないか。</p>	

整理番号	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
4	<p>国家戦略商品である半導体産業の誘致地について、もはや大阪は出遅れ期待できない。産業・経済はいまや国家の外交・安全保障と深く結びついている。本来、国家外交・安全保障は国が責任を持って立案・遂行していくものだが、今後は関西・大阪も世界と国の動向をにらみ独自に地域での世界外交・安全保障を深く意識した経済・産業プラン立案が望まれるのではないかと考える。</p> <p>外貨蓄積も米ドルに偏重することなく、今後の世界秩序をにらみバランスを考慮した構成にしていく必要がある。</p>	<p>今回の改訂は、気候変動・地球環境問題、社会構造（人口動態）、技術革新、不確実性を踏まえてトレンド分析を行い、それらを意識しながら、作業を進めております。</p>